

3. 建築物デザイン

●長崎県美術館



○美術館の形態や意匠を隣接する水辺の森公園の雰囲気と調和したものにするとともに、アートプロムナードや水路との兼ね合いを考慮。

●A I G長崎ビル（民間）



○圧迫感軽減のため、ファサードデザインによって建物を分節化。
○公園の緑と海や空の青に映える白を基調としてデザイン。

●水辺の公園レストラン



○周辺の雰囲気やうみてらし橋及びあじさい橋と調和するように壁面を白色とし、ボリューム感を押さえるため屋根の形態を工夫。

●長崎3大学連携型起業家育成施設 （中小企業基盤整備機構）



○敷地内及び敷地周辺を可能な限り緑化。
○長崎県美術館やA I G長崎ビルと合わせたルーバーによるファサードデザイン。
○壁面の色は周辺の建物と同じ白色を基調としてデザイン。

●出島交流会館ビル耐震改修



○建物の中段にある2層の壁の部分にジャイアントフレームを設置することで耐震性を増す工夫。
○その構造が良好なファサードデザインとなるよう、窓や凸部分のデザインを工夫。

●長崎ピースミュージアム（民間）



○環長崎港全体との雰囲気との調和に配慮しつつ、世界平和の祈念という目的にふさわしい象徴的なデザイン。

●旭町・丸尾地区再開発建築物（民間）



●長崎歴史文化博物館



○石積みの一部を外壁に活用するなどの工夫を加えながら長崎奉行所立山役所の一部を復元整備。

○大規模建築物であることに伴う圧迫感の解消を図り、長崎港全体のランドマークとしての表現性を上手く演出するように配慮。

長崎県美術館

■施設の概要

・敷地面積：約 9,981㎡ ・延べ面積：約 9,876㎡ ・高さ 西棟：15.0 m（2階） 東棟：22.7 m（3階）

■アーバンデザインの観点から工夫したこと

- ・敷地を二分する水路を活かした建築デザイン。
- ・隣接する長崎水辺の森公園等とのデザイン的な連続性に配慮し、積極的に屋上緑化。
- ・アートプロムナードは、当初案ではギザギザ型の複雑な構造になっていたが、水路沿いの自然とのつながりを重視したシンプルなデザインにするなど、デザインの一体性を確保。

【新デザイン】



【旧デザイン】



A I G長崎ビル（民間）

■施設の概要

- ・敷地面積：約 8,000㎡ ・延べ床面積：約 21,600㎡ ・地上 5 階建て

■アーバンデザインシステムの対象となった背景

- ・民間企業の建物だが、長崎水辺の森公園、長崎県美術館と隣接した非常に重要な場であることから、アーバンデザインシステムを適用。

■アーバンデザインの観点から工夫したこと

- ・旧デザインは、真四角な四階建ての建物であったが、ファサードのデザインによって建物を分節化することで圧迫感を軽減。
- ・外壁は白を基調とし、積極的に屋上緑化、隣接の県有地への植樹により、公園の緑と海や空の青に映えるデザイン。

【新デザイン】

【旧デザイン】



旭町・丸尾地区再開発建築物（民間）

■施設の概要

- ・敷地面積 9,896㎡
- ・延べ床面積 46,347.47㎡
- ・高さ 95 m (28 階)

■アーバンデザインシステムの対象となった背景

- ・民間の建築物だが、ランドマーク性が非常に高いことなどから、アーバンデザインシステムを適用。

■アーバンデザインの観点から意図したこと

- ・周辺環境や背景の山との調和を図りながら、タワー上部を若干絞り込み、巨大建造物のもつ圧迫感を軽減。
- ・環長崎港地域の基調色との調和を図るため白系統とし、ルーバーによる縦のデザインにより、ランドマークとしての存在性を主張。

【新デザイン】



【旧デザイン】

